

(書式1)【候補者用】

① 立候補者の 姓名と所属	永井孝志 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門
② 立候補の理由と 抱負 (400 字程度)	化学物質のリスク評価の研究に従事するようになった頃よりリスク学会を情報収集の場、成果発表の場、ネットワーク形成の場としてきました。2011年の東日本大震災後には化学物質のみならず様々なリスクを横断的に扱うことに興味を持つようになり、様々なバックグラウンドの専門家が集うリスク学会は活動の最適な場であると考えています。ただし、COVID-19 発生後は科学と政策の関係が社会的な注目を集めたものの、この問題に以前から取り組んできたはずのリスク学会のプレゼンスはまだ高くありません。今後はリスク学会の理事として積極的に運営にかかわることにより、リスクに関わるさまざまな活動の中心となる場をさらに発展させたいと考えて立候補することとしました。リスク学会のプレゼンスの向上、さまざまなリスクを俯瞰する場やネットワーク形成の場としてのさらなる発展、後進の育成、AI など新しいリスクへの積極的なキャッチアップなどの課題に取り組みたいと考えています。また、透明性や公正性を重視し、会員の声を聴きながら学会の運営に参画します。
② 本学会における 活動歴	<ul style="list-style-type: none"> ・レギュラトリーサイエンタスクグループ共同代表者 (第1期～第4期) ・学会誌には原著や総説、情報、レターなど計10報が掲載 ・年会における企画セッションやワークショップのオーガナイズ (複数回)、代表者として計15回の発表 ・リスク学事典 (2019) 執筆 (3項目) ・2012年11月 日本リスク研究学会 奨励賞受賞
④ 研究歴・職歴等 (100 字以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・2007年より農業環境技術研究所 (現農研機構) に入所し、主に農薬の生態リスク評価に関する研究に従事 ・環境省、農林水産省、経済産業省の各種委員会・審議会の委員として行政が行う化学物質のリスク評価の実務に貢献

(書式2)【推薦者用】

① 推薦する候補者 名	永井孝志氏
② 推薦者の 姓名と所属	藤井健吉 (花王株式会社研究開発部門研究主幹/研究戦略・企画部部長)
③ 推薦理由 (400 字程度)	永井氏は、リスク学分野で解決志向性リスク評価の考え方 ^(※1) を探求する開拓者です。2012年に学会奨励賞、13年からはレギュラトリーサイエンタスクグループ世話人として、年次大会企画セッション、リスク学研究での論文発表、シンポジウム講演などで幅広くご活躍しております。農環研では、農薬の生態リスク評価に取り組み、リスク評価の解決志向型への切替え、そのためのリスクの定量化研究を推進、2022年には集大成となる論文を発表なさっています ^(※2) 。

行政によるリスク評価の実務では、環境省水産動植物登録保留基準設定検討会（農薬の基準値設定）、農林水産省農業資材審議会（農薬の登録審査）、経済産業省化学物質審議会（化審法の審査）、等で委員を担われております。リスク学事典では「マクロ統計からみるリスク」、「リスク比較」など重要な項目を執筆されました。また、ブログを介した多彩なコミュニケーションを実践、その明晰で親しみやすい人柄と鋭い切り口は実に面白く、皆様もぜひご一読ください。本学会の理事として、更なるご活躍をすることを心より期待します。

参考文献：

※1. 永井孝志 (2013)リスク評価とリスク管理の位置づけを再構成する解決志向リスク評価, 日本リスク研究学会誌, 23, 145-152

※2. プレスリリース(研究成果) 農薬使用による水生生物への生態リスクの全国的な変動を見る化
https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/niaes/154634.html

※3. ブログ「リスクと共により良く生きるための基礎知識」
<https://nagaitakashi.net/blog/>